

モモのカイガラムシ類情報第1号

令和5年4月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

クワシロカイガラムシの防除適期は4月28日から5月4日です。
前年よりも適期が早いため、
タイミングを逃さないよう注意しましょう。

1 モモのカイガラムシ類について

モモを加害する主なカイガラムシ類は、クワシロカイガラムシとウメシロカイガラムシです。この2種の交尾した雌成虫は、枝幹などに寄生して越冬します（図1）。

例年4月中下旬から産卵が始まりますが、卵や雌成虫は介殻（カイガラ）に覆われて薬液が虫体に付着しにくいため、この時期の農薬散布は効果的ではありません。農薬による防除効果が高い時期は、介殻に覆われていない1齢幼虫の発生ピークです。この時期を逃すと、防除効果は急激に下がります。



図1 クワシロカイガラムシの寄生状況

2 防除適期予測

1齢幼虫の発生ピークが防除適期です。本年の有効積算温度を利用した第1世代1齢幼虫の発生ピーク予測日は、クワシロカイガラムシが4月28日から5月4日です（表）。ウメシロカイガラムシはクワシロカイガラムシより5日程度早いと予測します。

表 クワシロカイガラムシの第1世代1齢幼虫発生ピーク予測日

	名古屋	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋
本年予測	4/28	5/4	5/4	4/29	5/2
(前年)	5/5	5/8	5/10	5/7	5/8
前年差	7日早	4日早	6日早	8日早	6日早

注) 本年の予測日は、各地のアメダス平均気温を利用して計算。
4月16日までは本年実測値を、それ以降平年値を利用して計算。
前年については、前年気温の実測値を用いて計算。

予測は今後の気温が平年並に推移することを前提としていますので、今後の気温経過などで発生ピーク日が前後する場合があります。4月13日名古屋地方気象台発表の1か月予報によると向こう1か月の気温は高いと予測されていることから、発生ピークが早まる可能性があります。なお、各ほ場での1齢幼虫の発生ピークを正確に把握するには、各自で以下の方法で確認することが可能です。

確認方法：ピーク予測日の5日程前に雌成虫が寄生している部位に白色のビニールテープを巻き、その上から両面テープを巻きます(もしくは青色粘着板を設置(図2))。捕殺されたオレンジ色の幼虫(図3)をルーペで毎日観察し、発生量を確認します。

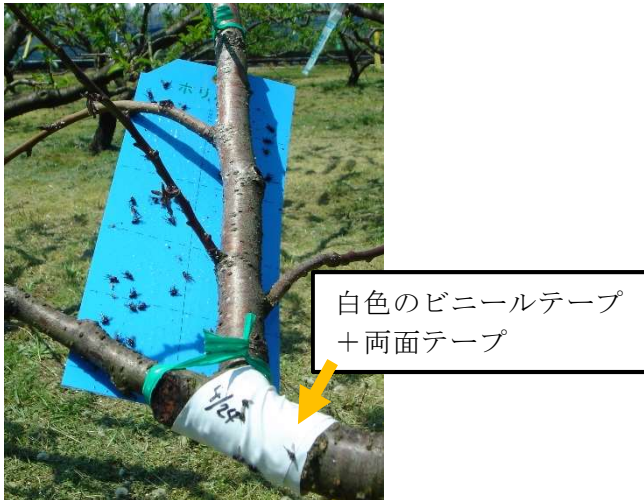


図2 1 齢幼虫確認方法



図3 ウメシロカイガラムシの
1 齢幼虫(体長 0.25mm)

3 防除

それぞれのほ場で主に発生しているカイガラムシ類について、防除適期にモスピラン顆粒水溶剤 (FRAC コード: 4 A) やオリオン水和剤 4 0 (FRAC コード: 1 A) などで防除しましょう。

発生の多いほ場では、薬剤散布1週間後に系統の異なる薬剤で追加防除しましょう。